

I. ビジネス創造センター概要

I-1. 平成 21 年度の活動：概説

ビジネス創造センター（CBC）

センター長 海老名 誠

本研究活動報告書では、CBC の平成 21 年度の活動内容および実績についてご紹介いたします。CBC の運営活動にあたった教員や学外協力スタッフ等の状況は「I-2. 主要事業分野」および「I-3. 組織」のとおりです。

本邦の産学官連携活動は、政府の「科学技術振興政策」方針に則り、バイオ・IT・医療技術・創薬・ものづくりなどの分野に特化しつつあると言っても過言ではありません。大学発ベンチャーも、大半が自然科学系の研究から誕生しています。しかし、自然科学系の研究から発芽するシーズを掘り起こして世に送り出し、大きく健全に育て、その果実を適性に社会に還元させる仕組みを構築する上で、社会科学的知見が不可欠であることは言うまでもありません。社会科学系大学の地域共同研究センターである本学 CBC は、北海道・小樽地域を軸足にしてその重要な役割を担うべく、自然科学系大学との連携を深め新しいビジネスの創出に尽力しております。具体的には、マーケティングや市場調査・フィールド調査などを通じた地元の中小企業や公的機関に対する貢献が一例です。平成 21 年度も地元小樽の商工会議所と連携した海外市場調査をはじめとした北海道の産学官連携活動に積極的に取り組みました。

近年、産学官連携の現場では「人材育成」の重要性が叫ばれています。さまざまな新しい研究成果と市場や社会とを結びつけ新しい価値を創造する役割を担ってきた CBC は、コーディネーター人材の育成に関して多くのノウハウを蓄積しております。平成 19 年度末に調印された小樽市と本学の包括連携協定に基づいて、平成 20 年 4 月より小樽市職員 1 名を地域連携推進コーディネーターとして常勤配置し、小樽地域を中心とした地域連携を一層推進するとともに、大学と地域の連携活動のつなぎ役となる人材の育成にも注力いたしました。

人的貢献という側面からは、公的機関などが組成する各種委員会への参画も、本学の社会貢献活動として重要な位置づけであります。本学教員は各種委員会・審議会へ幅広く参加しておりますが、特に本センターに関係する教員は、今後も引き続き公的活動に積極的に関与して参ります。

平成 21 年度は、本学の活動を広く市民にお伝えしご理解・ご支援いただくための情報

発信も積極的に行いました。一般市民を対象にした地域活性化セミナーを 11 月に開催し、大学と地域の連携に対する理解を深めていただきました。また商工会議所の会報にコラム「ビジネス・ワンポイント」の紙面をいただき、関係教員が持ち回りで各専門分野のトピックや考え方を毎号に寄稿しました。

本学が所在する小樽は、多くの地方都市の例外にもれず年々常住人口が減少しており、市の財政状況も大変厳しいものとなっております。その中で小樽市は平成 20 年 10 月に観光都市宣言をし、観光関連産業による地域の活性化を図っております。金融危機の影響による景気後退を受け、小樽を訪れる観光客も減少しておりますが、一方中国をはじめとするアジアからの観光客は増加傾向にあります。本学は小樽をアジアにおける国際観光都市として確立するために、今後もさまざまな活動を通じて支援・貢献して参りたいと考えております。